中央大学学員会

年次支部ニュース 第12号

特集 ホームカミングデー

ごあいさつ

中央大学は我が人生の誇り

ホームカミングデー実行委員長
大木田 守

「中央大学、バンザイ…」

歓喜の声が東京ドームホテルに大きく響いた。都心での初めての開催となった、第28回ホームカミングデーは、晴天、無事故、大成功で終わり、中央大学の歴史にまた新しい一ページを開いた。

「中央大学の夕べ」では、初めて東京都知事が来賓として出席。小池知事は、法学部の都心移転をはじめ、発展を続ける中央大学に大きなエールを送り、自らが中央大学の客員教授として7年間教壇に立ったエピソードを紹介。

ビッグ座談会では各会を代表する論客が登場。NHKの島田さんの名司会で、母校中央大学への思いと、期待、我が人生の誇りを語った。

大学招待の「卒業50周年」では昭和44年卒業の皆さんが、過去最高の650名。久し振りの再会に絆を確認。笑顔と語らいの花が咲いた。

「駿河台の思い出を語る白門の集い」では、昭和26年から30年までの卒業生が参加。90歳を超える人も多く、人生100年時代と母校の歴史の重みを感じさせた。

その他、東京オリンピック企画、理工学部の研究室の公開など多彩な企画に、参加者は総合大学として発展を続ける母校に夢をはせ、卒業生最大の祭典は思い出多い楽しい秋の一日となった。

第28回 ホームカミングデーを 都心（後楽園キャンパスほか）で開催

令和最初のホームカミングデーは、9月29日、後楽園キャンパスを中心とした3会場で実施されました。後楽園キャンパスでホームカミングデーが開催されるのは初めてのことでありましたが、年次支部協議会は運営委員会（山中温委員長）、実行委員会（大木田守委員長）両委員会に参画し、実働部隊として協力しました。

《後楽園キャンパス》

後楽園キャンパスは多摩キャンパスに比べて狭く、屋外のテーブル席、ステージ、テントは設営できません。したがって飲食の模擬店も設置できず、物販の模擬店（長野中信支部）のみを5号館1階ロビーで行いました。

メイン会場の5号館1階教室に無料相談コーナーを設け、2・3階教室を集合場所として提供しました。卒業5年・10年・15年・20年にあたる学員は、3号館1階の食堂で懇親会を行いました。

後楽園キャンパスでの企画イベントは、5号館での「開会式」「ビッグ座談会」「オリ・パラ　アスリート紹介」のほか、3号館では「ボランティア活動写真展」「茗荷谷キャンパス資料展示」を行い、同館正面を「茗荷谷キャンパス予定地現地見学会」および「市ヶ谷田町キャンパス現地見学会」のマイクロバス発着所としました。

6号館の理工学部図書館の見学や、1号館から6号館に散らばる各研究室の公開も行われ、実際の教育現場を理解していただきました。

後楽園キャンパスは多摩キャンパスと違って制約が多いため、毎年恒例となっている「オリジナルグッズ販売＆三角くじ抽選会」「呈茶」「はくもん寄席」「似顔絵コーナー」「書道コーナー」「親子ポンポン教室」「こども実験教室」「遊具コーナー」は実施しませんでした。

またやはり恒例となってきた「はくもん駅伝大会」は11月3日に日程を替え、多摩キャンパスで行うこととしました。

《5号館でビッグ座談会》

5号館の5534号室では、午後1時より第1部の開会式が行われ、開会宣言、大村理事長挨拶、応援団主導による校歌斉唱でボルテージが上がります。「中央の絆」は会場が狭いため、幟旗は壁際に立てかけたままの状態です。支部代表の方々は少し残念そうに所属支部の旗を見つめていました。

開会式に続き、同じ場所でメイン企画「ビッグ座談会：母校中央大学は我が人生の誇り」が実施されました。これは、法曹界から甲斐中辰夫元最高裁判事（62年法卒）および宗像紀夫元名古屋高検検事長（65年法卒）、学会から山田正理工学部教授（76年大学院卒）、経済界から宮内直孝日本製鋼所社長（81年理工卒）、NPO法人日本紛争予防センターから瀬谷ルミ子理事長（99年総政卒）、マスコミ界から島田敏男NHK名古屋放送局長（81年法卒）が出席し、母校への思いを語る座談会です。

司会を務めたのは島田敏男局長。元NHK解説委員長として「日曜討論」の司会などでその手腕をほしいままにしていただけに、見事な捌きで、出席者たちから本音と持論を引き出していきました。それぞれ斯界を代表する人物に世代の違いを際立たせながらも学生時代の思い出をたどり、仕事上直面する課題や展望を聞き出しました。さらに、中央大学出身者の繋がりという恩恵にまで話を進め、若い卒業生や現役学生への期待とアドバイスを求めるといった司会振りで、会場のOBたちを堪能させていました。

祝 理工学部 創立 70周年!!

理工学部創立70周年記念事業が9月28日（土）13時より18時30分まで、3部構成で開催。1部記念イベントでは中央大学音楽研究会吹奏楽部による記念演奏会、活躍する理工学部OBパネリストによる記念討論会、本学学友会体育連盟応援部による演舞があり、2部記念式典と共に文京シビックホールには500名の参加者で賑わった。3部記念祝賀会はホテルメトロポリタンエドモント会場を移し、理工学部卒業生をはじめ250名の参加者で盛大に70周年を祝った。

翌日の初の都心後楽園キャンパスでのHCD開催にも多大なご協力を頂いた。

《アスリート紹介》

ビッグ座談会の後は会場を隣の教室に移し、もうひとつの目玉企画「アスリート紹介：東京オリンピック・パラリンピックをめざす青春の輝き」が行われました。

これは文字通り「東京2020」の出場をめざす現役・OBアスリートを紹介するもので、本学関連のアスリートが出席し、座談会形式で選考過程の現状や意気込み、抱負を語ってもらうという趣旨でした。

出席者は、現役を引退したもののJOCアスリート委員としてフェンシング競技の指導・普及に活躍するロンドン五輪銀メダリストの千田健太氏（09年文卒）、本年卒業前に東京マラソンで日本人１位の記録を出し９月に行われたMGC（マラソン・グランド・チャンピオンシップ）に最年少で出場した堀尾謙介選手（19年経卒：現トヨタ自動車）、2018年アジア大会100m自由形で優勝し短距離自由形競泳選手として最有力視されている塩浦慎理選手（14年法卒：イトマン東進）、同じく2018年アジア大会200m背泳ぎで銅メダルを獲得した競泳の砂間啓太選手（18年法卒：イトマン東進）、2019年世界水泳200m個人メドレーで５位となった在学生の大本里佳選手（法学部４年）、日本パラ水泳50m・100m自由形（視覚障害の部）で２年連続優勝を成し遂げた在学生の長野凌生選手（文学部４年）の６名に加え、司会進行を担った経済学部卒でフリーアナウンサーの曽根純恵さん。

選手たちは曽根さんの質問に答えながら、東京2020出場に向けての決意を力強く語りました。千田氏はそうした選手たちを頼もしげに見ながら、先輩アスリートらしい経験談を交えて心構えをアドバイスしていました。

グローバル教育を称賛する小池東京都知事

《東京ドームホテル》

第２部の会場は東京ドームホテルです。学員が17時30分から行われた「中央大学の夕べ」の会場となる地下１階「天空」の間を埋めつくしました。

「夕べ」の冒頭に登壇したのは小池東京都知事。かつて中央大学の客員教授を務めたことを枕に振り、バルーンの地球儀を受け取って中央大学のグローバル教育を称賛、学員からの拍手を浴びていました。

スイング部の演奏

セレモニーとしては曽根純恵アナウンサーが司会をし、大村理事長、酒井総長、福原学長、久野学員会長が続いて挨拶、祝宴に入りました。

その後は、恒例の親子三代表彰、スイング部の演奏、応援部の演舞、福引抽選会を経て、最後は大木田守実行委員長の閉会の挨拶で幕を閉じました。

応援エール

第2回卒業後5年・10年・15年・20年学員懇親会

担当：HCD実行委員　佐藤愛子

今年の若手OBの集いは、後楽園理工学部キャンパス３号館１階学食において開催され、54名（家族数名含む）の参加者が集い旧交を温めた。室学員会副会長の歓迎挨拶で始まり、福原学長からOB達へ【歓迎の言葉、法学部都心回帰・駿河台記念館建替えの話、好評な新学部の国際経営学部・国際情報学部の報告、母校への応援と学員の輪を広げてほしい】旨のご挨拶、参加者全員の自己紹介があり、半澤年次支部協議会代表幹事の謝礼を込めた閉会の言葉で閉会した。

初めは知らない同士が多い年次で話題も盛り上がらず、やきもきしたが、福原学長が来場されてからは学長のユーモア溢れるお心遣いもあり、それぞれの談笑の輪が広がり、写真撮影などで笑みがこぼれ、和やかな宴となった。

福原学長を囲んで

笑みがこぼれる写真撮影

前年 初めてこの世代に多摩キャンパスでのホームカミングデー参加を呼び掛けた時は赤ちゃんを抱っこしたOG、小さなお子さん連れのOBなど家族ぐるみの参加者が多くいたが、今年は学員が倍近くなり、参加して良かったとの声も多く聞かれた。少しずつでもこのような集いがあることが浸透していってほしいと願っている。

44会入会受付を開設

卒業後50年学員懇親会に招待頂いて

昭和44年経済学部卒 白門44会広報委員長　石田　壮

大村理事長挨拶

久野学員会長挨拶

9月29日（日）、予報で心配された天候は残暑が残る快晴のイベント日和。"新しい時代へ中央大学大きく動く"のテーマを掲げての第28回を迎えたホームカミングデー。今年は、理工学部の創立70周年、法学部の文京区移転決定等お祝いムードも溢れての年。そして初の都心での開催でもあった。卒業50年の学員として、女房同伴で招待して頂いた。懇親会場が東京ドーム球場に隣接の東京ドームホテル。

「卒業後50年学員懇親会」の開始が17時なので、至近距離の70周年後楽園キャンパスを訪ねる。"卒業式の無い卒業"といわれた昭和44年組が記録に残る4月の大雪の日、卒業証書を手にしたのが旧後楽園キャンパスでした。

文字通り"あれから50年"の学舎。音研で活躍された同期の藤岡秀武氏が6号館の教室に吹奏楽部などで活躍されたリーダーを招請しておられた。近況交歓の話題に短時間で中大現役当時のエピソードで盛会に。

「卒業後50年学員懇親会」はドームホテルのオーロラとシンシアの2会場で開催された。会場受付に隣接して「白門44会」の入会受付も開設。「50周年記念誌」も無料配布され好人気、当日限りで37名の方が新入会。

オーロラ会場の懇親会では実行委員の白門45会相場有二支部長の司会、大村雅彦理事長、久野修慈学員会長の挨拶で開宴。

700人を超えた参加者はホテル内の「天空」会場の「中央大学の夕べ」でスウィング部の演奏、久しぶりの応援部の演舞も楽しみ、フィナーレはシンシアでの同期のサックス奏者佐藤秀也Bandの「ラブミーテンダー」に酔いしれた50年目のメモリアルデーとなりました。母校に心より感謝いたします。

佐藤秀也Bandの演奏

卒業後25年 学員懇親会

白成会支部幹事長　柴田健二（H6年卒）

9月29日、今年で2回目となる大学主催の卒業後25年学員懇親会が、東京ドームホテル42階シリウスなど複数会場で開催されました。

今年は平成6年度卒業生7,026人のうち、ご家族などを含め235人の参加を頂きました。福原学長のご挨拶、平成6年度卒業時に有志で結成された学員会支部白成会の黒澤会長による乾杯の音頭のあと和やかに立食パーティーが開催されました。

会場はドームホテル42階

久しぶりに顔を合わせるメンバーも多く、旧交を温めるよい機会となりました。しばしの歓談の後、久野学員会会長によるご挨拶があり、大村大学理事長により卒業25周年を迎えた中村勇人さん、理工学部に在学中の中村偉皇（いおり）さんへの親子二代表彰が行われました。

卒業後25周年という記念すべき年に、アクセスのよい都心の好立地での盛大なパーティーを企画頂き大学・学員会関係の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

白成会支部の皆さん

また、この懇親会をきっかけに、平成6年度同期会として、今後も親睦や情報交換の場として白成会の活動を活発にして参りたいと思います。

左端が堀合氏

青春、駿河台に在り!!

30年会支部長　堀合辰夫

椅子が配備された会場

今年は、夏のうちからお祭り気分だった。8月4日、出身高校（盛岡農業）が創立140周年記念事業の一環として、東北夏祭りの一つである盛岡さんさ踊りに参加、PRの垂れ幕を持って踊り手を先導することとなった。偶々、佐藤広報部長（48会）も盛岡に滞在中であったことを後で知った。44会の松木茂夫さん達有志が盛岡郊外三戸地区（白門りんごの会）の帰路、盛岡に立ち寄る予定と伺っていたが、残念ながら盛岡での合流は果たせなかった。

9月29日のホームカミングデーでは、昭和26年～30年卒業生の「語る会」が開かれ、137名の参加、記念館小講堂は急遽椅子を運び込まねばならない程の盛況だった。酒井総長の配慮の行き届いた労いのご挨拶と久野学員会長の情の籠もった激励のご挨拶には出席者一同感銘を受けた。

会の前半は、会食と白門グリークラブの合唱、後半は夫々の年次毎に別室で懇談、旧交を温めることが出来た。

30年会員は付添人を含め27名の出席、卒業後初めて駿河台を訪れたという会員が3名もいた。30年会としては遅ればせながら会員の発掘増強にもなった。青森からお嬢さんと共に来たという会員もいたし、ご子息の押す車椅子の会員もいた。出席者から「今日は、皆、駿河台の頃の顔になった。御茶ノ水の臭いがする」との発言で爆笑。私は、懇談の話題になればと思って昭和43年に担当したニコライ堂取り戻し裁判の切り刷り資料を準備、会員に配布した。序に酒井総長にも、その一部を差し上げ受け取っていただいた。

学員会からのお土産として、駿河台校舎や恩師の顔写真アルバム、中大マーク入りのタオルと小旗が配布された。また久野会長から懐かしい鯖缶の提供があった。会長の苦心談と共に母校先達会員に対する配慮に対して出席者一同に代わって心からお礼を申し上げる次第である。

ホームカミングデーを機会に新会員の増強も得た30年会としては、加齢を理由とする解散宣言は当分見合わせることにして、来年の卒業65周年総会に向けた準備に取り掛かる心算でいる。

駿河台の思い出を語る白門の集い

ＨＣＤ実行委員　駿河台記念館担当　清野　強

今年度のホームカミングデーは、後楽園キャンパスを中心とした都心での実施になったことに鑑み、昭和26年から昭和30年に本学を卒業された学員の方を対象に、特別企画が「駿河台の思い出を語る白門の集い」として当時学ばれた神田駿河台に唯一残る中央大学駿河台記念館を会場に実施されました。

当日は、メイン会場となった2階281号室のロビーに、当時のポスター展示を行ったところ、懐かしく見入っておられました。訪れた方々は、配偶者を伴ったご夫婦や親子で連れ添った方を含め、137名の方が参加されました。

白門グリークラブ

午後1時の開会宣言は、白門グリークラブのOBでもある宮本康幸氏の司会で始まり、次いで校歌「草のみどり」を白門グリークラブが斉唱した後、酒井正三郎総長から挨拶があり、次いで久野修慈学員会会長の乾杯の発声で歓談に入りました。また、歓談の途中には年次支部協議会を代表して学員会副会長でもおられる柳田晋次顧問が心のこもった挨拶をされました。

その後、白門グリークラブによる曲の演奏、昭和26年箱根駅伝優勝時のビデオ上映を行う等、和やかな雰囲気のもとで懐かしさも加わり緩やかな時間が過ぎて行きました。

一方、折角の機会に同じ卒業年次の仲間が参加されていることに鑑み、2時半から3階の会議室4室に各卒業年次の同期の者同士で集まり、参加された皆さんは久しぶりとなる年次支部総会ならぬ集いを開催し、旧交を温めあうことができたようです。

なお、駿河台記念館は今後建替え工事が予定されていることから、暫くは使用することができなくなりますが、機会があれば今後も開催することが検討されています。

中央大学硬式野球部が東都大学で15年振りの優勝を勝ち取れるか!!

白門40年会 会長　佐々木幸男

（写真①）前列右端が佐々木氏

私はこの10年、東都大学の中央大学硬式野球部の応援で神宮球場に通っていました。白門40年会の仲間（新井俊男君・平井輝久君）と連絡を取り合い、観戦後も悲喜こもごも一杯やりながら楽しんでいました。従って、東都大学オフィシャルガイドブックが春号・秋号併せて20冊にもなりました。それぞれ、ひも解くと選手の活躍が思い出されて自分自身の観戦記録にもなっているのです。

昨年（2018年）は吉田叡生キャプテンが孤軍奮闘でしたが、春季・秋季共に最下位となり入れ替え戦にも駆けつけましたが、何とか勝ち切り１部残留になった事が蘇って来ます。

その苦難を乗り越えて、今年春季リーグは勝点４で２位になり中央大学の逆襲が始まりました。秋季リーグは10月10日現在、国学院大学を下して勝点を３に伸ばし、６勝１敗で単独首位に立っています。来週の立正大学戦、再来週の東洋大学戦がありますが、いよいよ中央大学の15年振り（巨人で大活躍の亀井善行選手時代以来）の優勝が見えて来ました。

油断は禁物ですが、自信を持って言えば「野球は７割方投手力」と言われています。植田健人投手（２年）と後藤茂基投手（２年）が春季リーグでブレイクし、チームの主軸になっていて、皆川喬涼投手（２年）も加わって来ています。又、捕手の古賀悠斗選手（２年）は１年次からレギュラーで更に成長しています。

その「投手を支えているのが攻撃の要」である４番牧秀悟内野手（３年）の存在です。大学ジャパンでも４番に定着しているスラッガーです。続いて五十幡亮汰外野手（３年）・内山京祐内野手（３年）・小野寺祐哉内野手（４年）・中川拓紀内野手（２年）そして東海大相模から入学し、大学ジャパンにも指名された森下翔太外野手（１年）が頑張ってい

白門りんごの会第７回収穫体験＆地域交流会ツアー開催報告（白門44会主催）青森八戸の若手、中堅OB達の活躍をご紹介!!

白門りんごの会（松木茂夫会長）は2013年５月に発足し、白門44会が中心となり各年次・各地域支部等の協力を得て、現在では126名の会員となった。青森県三戸町を拠点に、三戸町役場と地元りんご生産者と手を携え、東日本大震災復興・地域町興し・さんのへりんごブランド力向上を支援している。

今回のツアーのハイライトを纏めてみると①収穫体験（三戸町・りんご組合との地域交流）②復興支援＆地域興し③八戸三社大祭観覧＆小岩井農場見学④南部・青森県・盛岡各地元白門会との交流会である。

「りんご収穫体験ツアー」は8/1（木）～8/2（金）にかけて、24名が参加して実施された。地元白門会や会員からの強い要望により、今回は八戸三社大祭（300年の歴史と伝統・ユネスコ無形文化遺産）を観覧することになった為、時期的にりんごではなく、今が旬のトマトの収穫体験となった。猛暑日の炎天下の中、高温の温室内に入り汗びっしょりになってもぎ取りしたトマトは、新鮮で格別の味わいであった。この収穫体験を通じて栽培する生産者の皆様のご苦労を痛感した。その後は地元レストランにて、松尾三戸町長他多くの地元の方々との有意義な交流を実施し、松尾町長のご厚意により町所有のねこバスで八戸に移動。東北の夏祭りは数多くあるが、八戸三社大祭も、なかなかの迫力であった。

三社大祭観覧桟敷席

今回は、地元で活躍する中堅若手OBには大変お世話になったので、是非彼らをご紹介したい。

特に、八戸ワシントンホテルの橋本博文社長（H元年卒）は宿泊した私達の為に、三社大祭観覧用に特別なメインの５階建て桟敷席をご準備頂き、大感激。桟敷席には白地に赤字の中央大学のぼり旗４本が風にたなびき、駅伝応援用タオルを首に巻き・中央大学の小旗を振りながら、全員で各山車に大きな声援を送り、中央大学ここにありと大いにアピールすることが出来た。午後15時から18時迄の約３時間にわたり、高さ15ｍ横幅10ｍの道路一杯に広げた絢爛豪華な27台の山車を一人の脱落者もなく観覧でき、お通りを満喫した。各メディアの取材も多く受け、その様子は、当日（8/1）RAB青森放送の18時からのニュース番組内で、

ます。忘れてはならないのは、下位打線ながら「守備の要」になっているキャプテン大工原壱成外野手（4年）です。

そして最後に、長年中大監督～中大コーチ～中大監督として献身的な清水達也監督の指導力と人柄です。

今年、福原紀彦学長（硬式野球部の部長であり、東都大学野球連盟理事長でもある）とお会いした折に「もし優勝したら、中大らしくなく派手な優勝パレードをやりましょう！」とお伝えしました。

中央大学の応援団は日本一だと思います。どこのチームと試合をしても、常に勝っています。応援団はリーダー部・ブラスコアー部・チアリーディング部の３部が一体になっていて、今年度団長（第73代）はチアリーディング部の若林希さんです。

スポーツ応援で年次の交流強化

年次支部協議会では、学生スポーツの応援を通じて年次のリレーションの構築を強化することを目的に、今年から本格的に活動することにしました。今年は、バレーボールと準硬式野球の応援に伺いました。

バレーボールは、2019年９月７日に実施された秋季リーグ開幕試合を応援。試合は残念ながら負けてしまいましたが、試合前に監督・選手と交流機会があり、バレーボール部の試合や合宿等遠征時に使用して頂けるよう、キャリーバッグとクーラーバッグを贈呈させて頂きました（写真①）。本日、10月15日現在４勝４敗、残り３試合に期待です。

一方、準硬式野球は優勝のかかった2019年10月６日に実施された試合を観戦。試合は残念ながら負けてしまいましたが、翌日リベンジを果たし、３季ぶりに優勝しました。関東王座決定戦での活躍を祈念しています。

バレーボール観戦時

年次支部協議会での応援は、今秋は執行部のメンバーが中心となりましたが、次回以降、年次の垣根をこえ、皆様のご意見等を参考に、一人でも多くの方と一緒に参加できるような体制やプランを考えたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

ワシントンホテルの橋本博文社長

八戸酒造の駒井伸介常務

割烹料亭「金剛」の大久保圭一郎社長

４本ののぼり旗をバックに、木藤良子・高畑国彦・松木茂夫３名の取材の様子が報道され、翌日の新聞各社にも記事が紹介された。地元出身のガイド役の高畑国彦氏（H２年卒）にはテレビ放映後、沢山のメールが届いたそうである。母校を思う先輩・後輩OBのありがたさを感じた次第。

懇親会場は大久保圭一郎氏（H元年卒）が経営する八戸一の割烹料亭「金剛」で開催。いちご煮・キンキのから揚げ・カラスカレイの煮つけ・イカの御造り等々、地元ならではの食材に舌鼓をうち、八戸酒造常務の駒井伸介氏（H17年卒）から銘酒八仙・男山の差入れ、赤ラベル・黒ラベルの飲み比べ等贅沢な日本酒を堪能した。

一方、青森県白門会、盛岡白門会からもOBが駆けつけて頂き、地元八戸、南部白門会との有意義な交流会を実施。長い歴史の中で、卒業後の場所を超えて気持ちのやり取りができ大盛会となった。中大出身の若手経営者が、地元で企業家として大いに活躍している、又、頑張っている姿を目のあたりにして頼もしくも感じた懇親交流会であった。

翌日は、「瀬戸内寂聴記念館」を見学後、高畑氏の紹介による小岩井農場（三菱系）を見学、多くの国指定重要文化財がある農場施設を約１時間30分かけ、特別ガイド付きバスツアーで巡ることが出来た。今でも現役で使用している施設も沢山あり貴重な体験となった。

今回の収穫体験は、白門OBの力をすべて借りての企画・運営、まさにオール中央（One Chuo）による白門の絆の強さを再認識した。

白門りんごの会が今後とも地域に根ざした活動を通じて、東日本大震災復興・三戸町興し・さんのへりんごのブランド力向上、そして地元住民・地域白門会との交流が活発となり中央大学のブランド力の向上に繋がることを大いに期待したい。八戸一の大久保社長は、東京丸ノ内のパレスホテルにも支店（きんき）を出店しているが、安価で美味しい料理を是非一度ご堪能頂きたい。

（記・松木茂夫、編集・佐藤）

MGC観戦記
(東京五輪マラソン代表選考会)

まだ夏の暑さが残る９月15日、東京五輪マラソン代表選考会レースが東京都内で開催された。五輪代表男女各３人の内、各２人を一発勝負で決める大一番で、男子31人、女子12人が出場。五輪本番さながらの厳しいレース展開となった。沿道には多くの観客が応援に駆けつけ大声援が響き渡った。このレースは超一流の選手が出場するため、箱根大学駅伝で話題になった各大学のエース級のOB選手達が多くいるので、大変楽しみなレースであった。中央大学からはただ一人、今春卒業した堀尾謙介選手（２月東京マラソンに初出場し見事日本人トップになった）が出場し、結果は15位であったが、自身では２回目のマラソンレースで、しかもマラソンのスーパースター達の中で15位とは大健闘であり、今後の社会人（トヨタ自動車）とし充分期待できる今後も楽しみな選手である。結果は１位・中村匠吾（駒沢大OB）、２位・服部勇馬（東洋大OB）の二人が代表権を獲得した。

箱根駅伝予選会通過 本戦も応援しよう！

中大は10位で予選通過

硬式・準硬式・軟式の３野球部がそろって優勝の快挙!!

新聞で報じられる東都大学１部秋季リーグ戦で、中央大学硬式野球部が15年ぶり25回目の優勝を成し遂げました。10勝１敗で勝ち点５の完全優勝は47年ぶり。戦国東都と評され、どこの大学が優勝してもおかしくない状況の中、圧倒的強さを示してリーグ制覇を果たしました。６ページで40年会佐々木会長が書いておられるように、優勝パレードがあるのでしょうか。

優勝杯贈呈式（硬式）

さらに、準硬式野球部も東都大学準硬式秋季リーグを３年ぶりに制し、63回目の優勝を飾りました。年次支部協議会が応援に行ったことが奏功したのでしょうか？　準硬式野球部は、今夏のインカレ出場を逃しましたが、その悔しさを秋にぶつけ自らの最多優勝記録を更新しました。

池田監督とともに（準硬式）

また、軟式野球部も全日本学生軟式野球選手権大会で、３年ぶり３回目の優勝を勝ち取りました。春季リーグ戦２位からの奮起で日本一の座をつかみました。

OBである巨人軍阿部選手引退の年にこのような快挙を成し遂げ、中大野球の存在感を示してくれた野球３部の活躍はまさしく賞賛に値すべきものです。

新規会員の参加を歓迎します!!

各年次支部は、同期会の集まりで大学、学員会会員との繋がりで活動しています。

- ▶スポーツ応援「陸上・水泳・野球・ラグビー他」（箱根駅伝の応援、東都大学野球応援、オリンピック選手などの応援ほか）
  各年次支部の活動…好みの活動に任意に参加ができます。
- ▶会員間のビジネス交流で人脈の拡大、更に先輩・後輩との繋がりを醸成
- ▶趣味の一致で、幅広い交流とコミュニケーションの充実
- ▶同期生の各職専門家との交流で、信頼感をもって問題解決への導きを図る
- ▶講演会、セミナーなどへの参画により自身の教養などを向上させる

《加入などの問い合わせ》学員会事務局：03-3219-6175

《年次支部ニュース　第12号》　2019年11月10日 発行

発行者／中央大学学員会年次支部協議会　〒101-8324　東京都千代田区神田駿河台3-11-5　中央大学学員会事務局気付
発行人／半澤　勉　TEL　03-3219-6175
編　集／年次支部協議会広報部　印刷所／㈱ディスカバリー